

## 編集後記

ある日の昼食にスープとトーストを注文した。後にコーヒーを飲んだ。

コーヒーを飲みながら前を見ると、お皿の上に紙くずや用器の残がいが小高い山をなしていた。それを眺めていて、これらのものが作られ、また処理されるのに、どれだけのエネルギーを必要とするのであろうか、と考えた。ずいぶん多くのものが使われているのではないだろうか

かつてある禅寺に精進料理を食べに行つたことがある。外国から来た研究者を案内して行つたのであるが、彼は、出されたものをあつという間に食べてしまった。後に残つたものは器だけで、食べ残したものは何もない。「これだけか」というので、「そうだ」と答えると、「禅の修行者は、こんな粗食で、よくあのように長寿を保つものだ」という。(禅の修行者は、概して長寿である。)「彼等は、このようなご馳走を毎日食べているのではなく、もつともつと粗食である」と説明すると、「考えられない」と言つた。

二つの食事のありかたはきわめて対照的である。両者の違いについてさまざまのことが思われた。そうしたことと考えていたら、昼の時間がだいぶすきてしまった。

(一)

平成六年三月十五日 印刷  
平成六年三月二十日 発行

(非売品)

編者 愛知大学文学會

代表者 安本 博

印刷所 豊橋市小池町  
東邦印刷工業所

発行所 豊橋市町畑町  
愛知大学文学會

振替 名古屋 三十四五六五四